

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 13 回学協会長会議

開催日時 平成 27 年 10 月 8 日(木)
15 時 00 分から 17 時 00 分

開催場所 東京大学 地震研究所 1 号館 2 階セミナー室
(〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1)

ご出席予定者名簿

NO	学協会名	会長	役職名	出席予定者	役職
1	一般社団法人日本宇宙生物科学会	高橋 秀幸	理事長	高橋 昭久	
2	一般社団法人 日本応用地質学会	長谷川 修一	会長	木谷 日出男	副会長
3	日本温泉科学会	井上 源喜	会長	井上 源喜	
4	日本海洋学会	日比谷 紀之	会長	日比谷 紀之	
5	特定非営利活動法人日本火山学会	井口 正人	会長	市原 美恵	理事
6	形の科学会	種村 正美	会長	松浦 執	
7	日本活断層学会	岡田 篤正	会長	宇根 寛	副会長
8	公益社団法人日本気象学会	新野 宏	理事長	新野 宏	
9	日本鉱物科学会	小山内 康人	会長	土山 明	副会長
10	日本地図学会	森田 喬	会長		
11	日本古生物学会	前田 晴良	会長	遠藤 一佳	常務委員
12	日本沙漠学会	小島 紀徳	会長	渡邊 文雄	副会長
13	資源地質学会	林 謙一郎	会長	林 謙一郎	
14	公益社団法人日本地震学会	加藤 照之	会長	加藤 照之	
15	日本情報地質学会	升本 眞二	会長	若林 真由美	評議員
16	日本水文科学会	鈴木 啓助	会長	鈴木 啓助	
17	一般社団法人 水文・水資源学会	山田 正	会長	樋口 篤志	
18	生態工学会	竹内 俊郎	会長	寺添 齊	
19	生命の起原および進化学会	川村 邦男	会長	ご欠席	
20	石油技術協会	小鷹 長	会長	小鷹 長	
21	公益社団法人 日本雪氷学会	高橋 修平	会長	大畑 哲	
22	日本測地学会	日置 幸介	会長	加藤 照之	副会長
23	日本大気化学会	今村 隆史	会長	今村 隆史	
24	日本堆積学会	武藤 鉄司	会長	小松原 純子	
25	日本第四紀学会	小野 昭	会長	吾妻 崇	
26	日本地学教育学会	牧野 泰彦	会長	牧野 泰彦	
27	地学団体研究会	長橋 良隆	会長	ご欠席	
28	公益社団法人日本地下水学会	谷口 真人	会長	杉田 文	
29	日本地球化学会	川幡 穂高	会長	川幡 穂高	
30	地球電磁気・地球惑星圏学会	山崎 俊嗣	会長	山崎 俊嗣	
31	日本地形学連合	倉茂 好匡	会長	島津 弘	
32	一般社団法人日本地質学会	井龍 康文	会長	井龍 康文	
33	日本地熱学会	糸井 龍一	会長	ご欠席	
34	地理科学学会	岡橋 秀典	会長	ご欠席	
35	公益社団法人日本地理学会	菊地 俊夫	理事長	須貝 俊彦	
36	日本地理教育学会	西脇 保幸	会長	荒井 正剛	
37	地理教育研究会	海東 達也	理事長	海東 達也	
38	一般社団法人地理情報システム学会	矢野 桂司	会長	ご欠席	
39	公益社団法人東京地学協会	野上 道男	会長	野上 道男	
40	東北地理学会	宮原 育子	会長	ご欠席	
41	土壌物理学会	長 裕幸	会長	吉田 修一郎	
42	日本粘土学会	黒田 一幸	会長	篠原 也寸志	庶務委員
43	日本農業気象学会	大政 謙次	会長	石郷岡 康史	
44	公益社団法人物理探査学会	齋藤 秀樹	会長	齋藤 秀樹	
45	日本陸水学会	熊谷 道夫	会長	熊谷 道夫	
46	陸水物理研究会	北岡 豪一	会長	鈴木 啓助	
47	一般社団法人日本リモートセンシング学会	久世 宏明	会長	久世 宏明	
48	日本惑星科学会	倉本 圭	会長	田近 英一	副会長
49	地球環境史学会	多田 隆治	会長	多田 隆治	
50	日本大気電気学会	服部 克己	会長	服部 克己	
	日本学術会議地球惑星科学委員会委員長	大久保 修平			
	日本学術会議地球惑星科学委員会幹事	中村 尚			
	日本地球惑星科学連合 会長	津田 敏隆			
	日本地球惑星科学連合 副会長	川幡 穂高			
	日本地球惑星科学連合 副会長	中村 正人			

第 13 回学協会長会議 議事次第

1. 前回議事録確認
(資料) 第 12 回議事録 (P1-3)
2. 日本地球惑星科学連合活動報告
(資料) 2016 年連合大会準備状況報告 (P4-20)
(資料) JpGU ジャーナルの進捗状況報告 (P21-28)
(資料) 次期代議員選挙に関する報告 (P29)
(資料) 法人運営基本規程第 3 条改正報告 (P30)
3. 日本学術会議の近況報告
(資料) 日本学術会議報告 (P31-32)
4. その他
日本第四紀学会
「INQUA 開催の御報告と御礼」

1. 前回議事録確認

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 12 回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成 27 年 5 月 27 日 (水) 午後 1 時 00 分から 2 時 00 分

開催場所 : 幕張メッセ国際会議場 302 号室

〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1

出席者 :

[学協会] 倉本圭(日本惑星科学会・議長), 小林憲正(日本宇宙生物科学会、生命の起原および進化学会), 大塚康範(日本応用地質学会), 井上源喜(日本温泉科学会), 日比谷紀之(日本海洋学会), 井口正人(日本火山学会), 松岡篤(形の科学会), 新野宏(日本気象学会), 小山内康人(日本鉱物科学会), 北村晃寿(日本古生物学会), 小島紀徳(日本沙漠学会), 若林真由美(日本情報地質学会), 鈴木啓助(日本水文科学会), 高橋修平(日本雪氷学会), 日置幸介(日本測地学会), 成瀬元(日本堆積学会), 小野昭(日本第四紀学会), 牧野泰彦(日本地学教育学会), 谷口真人(日本地下水学会), 川幡穂高(日本地球化学会), 多田隆治(地球環境史学会), 山崎俊嗣(地球電磁気・地球惑星圏学会), 武田一郎(日本地形学連合), 井龍康文(日本地質学会), 森田喬(日本地図学会), 矢野雄策(日本地熱学会), 奥村晃史(地理科学学会), 西脇保幸(日本地理教育学会), 小玉喜三郎(東京地学協会), 江口定夫(土壌物理学会), 篠原也寸志(日本粘土学会), 石郷岡康史(日本農業気象学会), 齋藤秀樹(物理探査学会), 楊宗興(日本陸水学会), 久世宏明(日本リモートセンシング学会),
[日本学術会議] 大久保修平, 藤井良一, 氷見山幸夫
[連合] 津田敏隆, 木村学, 川幡穂高, 中村正人,

議事内容 :

議事に先立ち, 出席者の自己紹介を行った。

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

1) 2015 年大会概要 (津田会長)

2015 年連合大会の開催状況について津田会長より報告があった。セッション数、投稿数について、開催直前段階での数字が報告された。期間中に開催される各種イベントについても紹介があり、本年度のフェロー授賞式、第 1 回地球惑星科学振興西田賞授賞式の紹介、また前日に開催された国際シンポジウム Geoscience Ahead の紹介があった。

2) PEPS 出版状況の報告

連合ジャーナル PEPS の出版状況について、川幡副会長より報告があった。現段階で 40 以上の論文が受理され、順調に投稿・出版されていること、またレビュー論文の比率が 30%に上っていることが報告された。

[質疑応答]

連合の活動について、倉本議長より質問があった。

・2017 年の連合大会は AGU とのジョイントミーティングになるということだが、国際セッションのみになるということでしょうか。

津田会長：全部のセッションがジョイントセッションとなるわけではなく、通常（日本語）セッションも開催します。

・2018 年以降の連合大会はジョイントとなるのでしょうか。

津田会長：2018 年以降については今後検討します。

3. 法人運営基本規程第 3 条（団体会員の入会基準）の変更について

この後開催される定時社員総会において、法人運営基本規程第 3 条の変更を諮る旨津田会長より報告があった。連合の団体会員である学協会の入会基準として、「地球惑星科学に関わる活動実績を有する『日本学術会議協力学術研究団体』に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。」とすることを総会で審議する。ただしこれは現会員には適用しない。

4. 日本学術会議の近況報告（日本学術会議地球惑星科学委員会 大久保委員長）

1) 第 23 期学術会議の活動について

2015 年 4 月 9 日から 11 日に、169 回総会を開催した旨の報告があった。（1）学術会議より、科学研究における健全性の向上のため、各学会誌について、authorship についての規定と二重投稿についての規定を整備し公開することを各学会等に求めていることが説明された。また、（2）第 5 期総合科学技術計画のあり方に対する提言、（3）学術会議の在り方、（4）大型研究計画検討分科会についての議論があったことが紹介された。（4）について、地球・惑星圏分科会藤井良一委員長より 2017 年のマスタープランの策定に向けて前回の提案に対するフォローアップを開始していることが紹介され、協力が求めていることが説明された。

2) 第 23 期地球惑星科学委員会の活動について

分科会、小委員会の説明があり、大型研究計画の深化、第 22 期地球惑星科学委員会の提言のフォローアップ、地球惑星科学における教育・人材育成についての課題に取り組むことが報告された。

5. 次期学協会長議長の選任

5月18日より学協会に次期議長の自薦・推薦を募集していた。倉本議長より、海洋学会日比谷紀之会長が推薦された。推薦は1件であったため、その場で可否を問うこととした。満場一致で承認された。

6. その他

・日本リモートセンシング学会久世宏明会長より、現在内閣府で宇宙法の制定について検討が進んでいるため、各学協会にもパブリックコメント等で適時協力して欲しい旨の報告があり、また科学技術白書2013年でも指摘があるように、日本の科学論文のシェアが低下していることについて、学会サイドから何らかの対応が必要ではないかという問題提起があった。

以上

2.日本地球惑星科学連合活動報告

2016 年連合大会準備状況報告

【開催概要】

名称	日本地球惑星科学連合 2016 年大会
会期	2016 年 5 月 22 日(日)～5 月 26 日(木) 5 日間
会場	幕張メッセ 国際会議場 (19 会場×5 日間) 国際展示場 (ポスター発表および展示ブース) APA ホテル東京ベイ幕張 (7 会場×3 日間)

5 月 22 日 (日) 1 日目

パブリックセッション

5 月 23 日 (月) 2 日目

学協会長会議、定時社員総会 (役員選任)

理事会 (代表理事・副会長選任)、フェロー授賞式、懇親会等

【タイムテーブル】

AM 1	9:00～10:30
AM 2	10:45～12:15
PM 1	13:45～15:15
PM 2	15:30～17:00

ポスターコアタイムは未定 (17:15～18:30 (最終日は 15:30～16:45) の予定)

【Important Dates】

2015 年

9 月 1 日 (火)	セッション提案開始
10 月 15 日 (木)	セッション提案締切
11 月 4 日 (水)	出展申し込み受付開始
12 月 21 日 (月)	開催セッション・コマ割り web 公開

2016 年

1 月 7 日 (木)	投稿・参加登録開始
2 月 3 日 (水)	投稿早期締切 (～24:00)
2 月 18 日 (木)	投稿最終締切 (～12:00)
3 月 7 日 (月)	採択通知 ※7 日より順次配信
3 月 10 日 (木)	発表プログラム web 公開
5 月 10 日 (火)	早期参加登録締切 (～17:00)
5 月 12 日 (木)	予稿 web 公開

セッション提案状況(10月6日現在)

◎提案済, ◆提案予定, ×提案無/★英語セッション/ピンクセル AGUジョイントセッション

2015開催セッション		2016 提案状況
緊急セッション		
S-SS66	2015年4月25日ネパール地震M7.8	

セッション記号 U (ユニオン)		
★U-01	Geoscience Ahead	
★U-02	Science Landscape of Japan with NASA Space Missions	
U-03	日本地球惑星科学連合と学術出版の将来	◎(M)
U-04	地球惑星生命フロンティア開拓	
U-05	Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究	
U-06	宇宙・太陽から地球表層までのシームレスな科学の新展開	
U-07	連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?	

セッション記号 O (パブリック)		
O-01	ジオパークへ行こう	◆
O-02	地球・惑星科学トップセミナー	◆
O-03	高校生によるポスター発表	◆
O-04	研究者の多様なキャリア形成を考える	
O-05	Future Earth構想と地学教育および地理教育との連携を考える	◆

セッション記号 P (宇宙惑星科学)		
P-PS 惑星科学		
★P-PS01	Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow	★◎
★P-PS02	Enabling Access to Solar and Planetary Resources through the Virtual Observatory	
★P-PS03	Rotation, inner dynamics and variations of natural processes on the Earth, the Moon and Mars.	
★P-PS04	International Collaboration in Planetary and Space Sciences: Small Projects, Big Missions, Everything	
★P-PS05	Mars	
P-PS21	惑星科学	◎
P-PS22	太陽系における惑星物質の形成と進化	
P-PS23	月の科学と探査	
P-PS24	宇宙における物質の形成と進化	
P-EM 太陽地球系科学・宇宙電磁気学・宇宙環境		
★P-EM06	Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling in the Earth's Atmosphere	★◎
★P-EM07	Space Weather, Space Climate, and VarSITI	★◎
★P-EM08	Progress in Physics of the Inner Magnetosphere	
★P-EM09	Dynamics in magnetosphere and ionosphere	
★P-EM10	Study of coupling processes in solar-terrestrial system	
★P-EM11	New frontier: Observations of the middle and upper atmospheres from ISS	
★P-EM12	Ionospheric and thermospheric disturbances during recurrent magnetic storms	
P-EM25	太陽圏・惑星間空間	◆
P-EM26	宇宙プラズマ理論・シミュレーション	◎
P-EM27	大気圏・電離圏	◎
P-EM28	磁気圏-電離圏ダイナミクス	
P-CG 宇宙惑星科学複合領域・一般		

P-CG30	太陽系小天体研究の新展開	
P-CG31	宇宙科学・探査の将来計画と関連する機器・技術の現状と展望	◎
P-CG32	惑星大気圏・電磁圏	
新規・再開セッション		
	Cosmophysical plasma jets (DMITRIEV ALEXEI)	★新
	MMS ミッションが拓く磁気圏物理の新展開 (銭谷 誠司)	★新

セッション記号 A (大気海洋・環境科学)		
A-AS 大気科学・気象学・大気環境		
★A-AS01	Advances in Atmospheric Remote Sensing Techniques	
★A-AS02	Ultra-high precision mesoscale weather prediction by high performance computing	★◎
★A-AS03	Understanding extremes: high-resolution models, dense observations and the emergent role of big data	
A-AS21	大気化学	
A-AS22	ミクロスケール気象現象解明にむけた稠密観測・予報の新展開	
A-OS 海洋科学・海洋環境		
A-OS23	海洋生態系モデリング	★◎
A-HW 水文・陸水・地下水学・水環境		
A-HW24	同位体水文学2015	
A-HW25	都市域の地下水・環境地質	
A-HW26	水循環・水環境	
A-HW27	流域の水及び物質の輸送と循環ー源流域から沿岸域までー	◎
A-CC 雪氷学・寒冷環境		
A-CC28	雪氷学	◆
A-CC29	アイスコアと古環境変動	
A-GE 地質環境・土壌環境		
★A-GE04	Subsurface Mass Transport and Environmental Assessment	★◎
A-CG 大気海洋・環境科学複合領域・一般		
★A-CG05	The role of salinity in Indo-Pacific ocean and climate	★◎
★A-CG06	Asian monsoon hydroclimate	
★A-CG07	Continental-Oceanic Mutual Interaction: Global-scale Material Circulation through River Runoff	◆
★A-CG08	Mountainous Catchment Storage Estimation for water resource management and flood risk reduction purposes	
★A-CG09	Satellite Earth Environment Observation	◎
A-CG30	陸域生態系における水・炭素・窒素などの循環に関する研究	◎
A-CG31	北極域の科学	
A-CG32	熱帯におけるマルチスケール大気海洋相互作用現象	★◎
A-CG33	陸海相互作用ー沿岸生態系に果たす水・物質循環の役割ー	
新規・再開セッション		
	成層圏・対流圏過程とその気候への影響 (山下 陽介)	2014
	「海洋混合学」物質循環・気候・生態系の維持と長周期変動の解明 (吉川 裕)	新

セッション記号 H (地球人間圏科学)		
H-GG 地理学		
★H-GG01	International comparison of landscape appreciation	
H-GG21	自然資源・環境の利用と管理	
H-GM 地形学		
★H-GM02	Geomorphology	

H-GM22	地形	
H-QR 第四紀学		
H-QR23	ヒト-環境系の時系列ダイナミクス	
H-SC 社会地球科学・社会都市システム		
★H-SC03	Implementing Human Dimensions Research for the Earth's Future	
★H-SC05	Tsunami and other Coastal Natural Hazards; is there enough information and awareness in rural and remote areas?	
H-SC24	人間環境と災害リスク	
H-DS 防災地球科学		
★H-DS06	Landslides and related phenomena	★◎
★H-DS07	Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems	
H-DS25	湿潤変動帯の地質災害とその前兆	
H-DS26	海底地すべりとその関連現象	
H-DS27	津波とその予測	
H-RE 応用地質学・資源エネルギー利用		
H-RE28	地球温暖化防止と地学(CO2地中貯留・有効利用,地球工学)	
H-TT 計測技術・研究手法		
★H-TT08	Geoscientific applications of high-definition topography and geophysical measurements	◎
★H-TT09	GIS	
H-TT29	環境リモートセンシング	◆
H-TT30	UAVが拓く新しい世界	
H-TT31	環境トレーサビリティ手法の新展開	
H-TT32	地理情報システム	
H-TT33	未来の地球環境と社会のための新しい情報基盤を構想する	
H-CG 地球人間圏科学複合領域・一般		
H-CG34	原子力と地球惑星科学	◎
H-CG35	堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動	◆
H-CG36	惑星と閉鎖生態系における生物のシステム—微生物からヒトまで	

セッション記号 S (固体地球科学)		
S-GD 測地学		
S-GD21	測地学一般	
S-GD22	GGOS(全球統合測地観測システム)	
S-GD23	重力・ジオイド	◎
S-SS 地震学		
★S-SS01	Exploring our limits in understanding earthquakes and improving our knowledge –CSEP Experiment in Japan–	
★S-SS02	Frontier studies on subduction zone megathrust earthquakes and tsunamis	
S-SS24	リアルタイム地震情報システムの発展と利活用	
S-SS25	強震動・地震災害	◎
S-SS26	地震波伝播:理論と応用	
S-SS27	地震予知・予測	◎
S-SS28	活断層と古地震	
S-SS29	断層のレオロジーと地震の発生過程	◎
S-SS30	地震発生の物理・震源過程	◎
S-SS31	地殻変動	
S-SS32	地震活動	
S-EM 固体地球電磁気学		

S-EM33	電気伝導度・地殻活動電磁気学	◎
S-EM34	地磁気・古地磁気・岩石磁気	◎
S-IT 地球内部科学・地球惑星テクトニクス		
★S-IT03	Structure and dynamics of Earth and Planetary deep interiors	★◎
★S-IT04	Rheology of Earth's Interior	
★S-IT05	Hard-Rock Drilling: Oceanic Lithosphere to Island Arc Formation and Beyond	
★S-IT06	Early Earth – from accumulation to formation –	
★S-IT07	New constraints on the tectonic evolution of Northeast Asia	
S-IT35	地球深部ダイナミクス: プレート・マントル・核の相互作用	
S-IT36	地球深部の能動的常時観測とシミュレーションの技術展望	
S-GL 地質学		
S-GL37	プレート収束境界における堆積盆形成テクトニクスの新たな展望	◎
S-GL38	上総層群における下部一中部更新統境界GSSP	◎
S-GL39	地球年代学・同位体地球科学	◎
S-GL40	地域地質と構造発達史	◎
S-RD 資源・鉱床・資源探査		
S-RD41	資源地質学の展開: 鉱化流体の起源と進化	
S-MP 岩石学・鉱物学		
★S-MP08	Micro- to macro-scale deformation: petrologic, mineralogic, geophysical and geochemical checkpoints	
★S-MP09	Supercontinents and Crustal Evolution	
★S-MP10	ultrahigh-pressure metamorphism –slab fluid and deep mantle dynamics–	
S-MP42	鉱物の物理化学	◎
S-MP43	変形岩・変成岩とテクトニクス	◎
S-MP44	メルトー延性一脆性岩体のダイナミクスとエネルギー・システム	◎
S-VC 火山学		
★S-VC11	Volatiles and volcanoes: the role of volatiles in determining how and when volcanoes erupt	
★S-VC12	Multidisciplinary volcano monitoring	×
S-VC45	活動的火山	◆
S-VC46	火山噴火のダイナミクスと素過程	
S-VC47	火山・火成活動と長期予測	
S-VC48	火山防災の基礎と応用	
S-VC49	火山の熱水系	
S-GC 固体地球化学		
S-GC50	固体地球化学・惑星化学	◎
S-GC51	希ガス同位体地球惑星科学の最前線	
S-TT 計測技術・研究手法		
★S-TT13	Recent Advances in Exploration Geophysics (RAEG2015)	★◎
S-TT52	空中からの地球計測とモニタリング	◎
S-TT53	地震観測・処理システム	◎
S-TT54	合成開口レーダー	
S-TT55	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来	
S-CG 大気水圏科学複合領域・一般		
★S-CG14	Mixed volatiles in subduction zones; Physical and chemical properties and processes	
★S-CG15	Detection of microcracks prior to rupture and layered interfaces by the seismoelectronic method	
★S-CG16	Deep Carbon Cycle	
S-CG56	日本の原子力発電と地球科学: 地震・火山科学の限界を踏まえて	

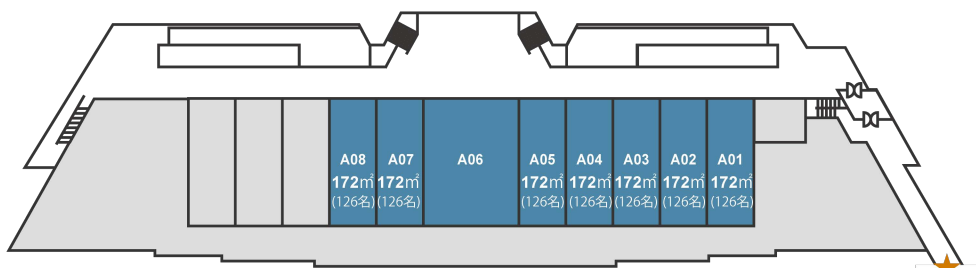
S-CG57	変動帯の構造・進化とダイナミクス	◎
S-CG58	岩石・鉱物・資源	◎
S-CG59	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理	◎
S-CG60	流体と沈み込み帯のダイナミクス	◎
S-CG61	地殻流体と地殻変動	◎
S-CG62	スロー地震	
S-CG63	雪氷圏地震学－地球表層環境変動の新指標－	Mで実施
S-CG64	海洋底地球科学	◎
S-CG65	兵庫県南部地震から20年：活断層と強震動に関する研究の進展	
新規・再開セッション		
	Hydrogen in the Earth's interior from the crust to the core (Mysen Bjorn)	★新
	コアとマントルの相互作用と共進化 (田中 聡)	★新
	Earthquake early warning developments around the world (田島 文子)	★新
	Structure and Dynamics of Suboceanic Mantle (是永 淳)	★新
	Intermediate-depth and deep earthquakes (久家 慶子)	★新

セッション記号 B (地球生命科学)		
B-AO 宇宙生物学・生命起源		
★B-AO01	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life	★◎
B-BG 地球生命科学・地圏生物圏相互作用		
B-BG21	熱帯－亜熱帯沿岸生態系における物質循環	◆
B-GM 地形学		
B-GM22	地球惑星科学と微生物生態学の接点	
B-PT 古生物学・古生態学		
★B-PT03	Biocalcification and the Geochemistry of Proxies –Field ecology, Laboratory culture and Paleo	
B-PT23	地球史解説：冥王代から現代まで	◎
B-PT24	化学合成生態系の進化をめぐる	
B-PT25	地球生命史	
B-PT26	地球ゲノム学	
B-PT27	原生代末／顕生代生物多様性変遷：絶滅と多様化	◎
B-CG		
B-CG28	生命－水－鉱物－大気相互作用	

セッション記号 G (教育・アウトリーチ)		
★G-01	Education of Earth science in tomorrow classrooms	★◎
G-02	総合的防災教育	◎
G-03	地球惑星科学のアウトリーチ	◎
G-04	小・中・高等学校の地球惑星科学教育	
G-05	学部生向けの教育	

セッション記号 M (領域外・複数領域)		
M-IS ジョイント		
★M-IS01	Geoconservation and sustainable development	
★M-IS02	Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes	
★M-IS03	Exploring the role of soil in earth science: ecological/biogeochemical linkage and beyond	
M-IS21	南大洋・南極氷床が駆動する全球気候・生態系変動	

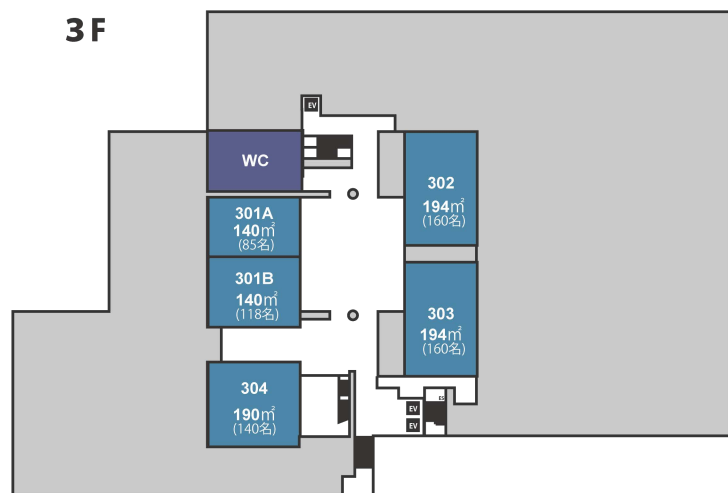
M-IS22	地球流体力学:地球惑星現象への分野横断的アプローチ	◎
M-IS23	ジオパーク	◎
M-IS24	ガスハイドレートと地球環境・資源科学	◎
M-IS25	津波堆積物	◎
M-IS26	生物地球化学	◎
M-IS27	地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象	◎
M-IS28	東アジア-北西太平洋域高解像度古気候観測網	
M-IS29	大気電気学	
M-IS30	遠洋域の進化	
M-IS31	結晶の成長と溶解における界面・ナノ現象	◎
M-IS32	地球掘削科学	
M-IS33	2011年巨大地震・津波以後の東北沖海洋科学	
M-IS34	古気候・古海洋変動	
M-IS35	この星は、なぜ地球なのか？ -水の役割-	
M-IS46	海底マンガニウム床の生成・環境・起源	
M-GI 地球科学一般・情報地球科学		
M-GI36	地球惑星科学におけるオープンサイエンスデータをめざして	
M-GI37	情報地球惑星科学と大量データ処理	
M-AG 応用地球科学		
M-AG38	福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態	
M-SD 宇宙開発・地球観測		
M-SD39	宇宙食と宇宙農業	◎
M-TT 計測技術・研究手法		
★M-TT05	New phase of GPS/GNSS application as an integrated earth observation system	
★M-TT06	Development and utilization of micro-satellite under international collaboration	
M-TT40	地球惑星科学データ解析の新展開:データ駆動型アプローチ	◎
M-TT41	インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像	◆
M-TT42	地球惑星科学における地図・空間表現	
M-TT43	ソーシャルメディアと地球惑星科学	
M-TT44	地球化学の最前線:未来の地球化学を展望して	
M-SD その他		
M-ZZ45	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	◎
新規・再開催セッション		
	Environmental, socio-economic and climatic changes in Northern Eurasia and their feedbacks to the Earth System (	★新
	雪氷圏地震学 - 地球表層環境変動の新指標 - (金尾 政紀)	★新
	地球科学と社会 (西山 忠男)	★新
	山岳地域の自然環境変動 (鈴木 啓助)	2014



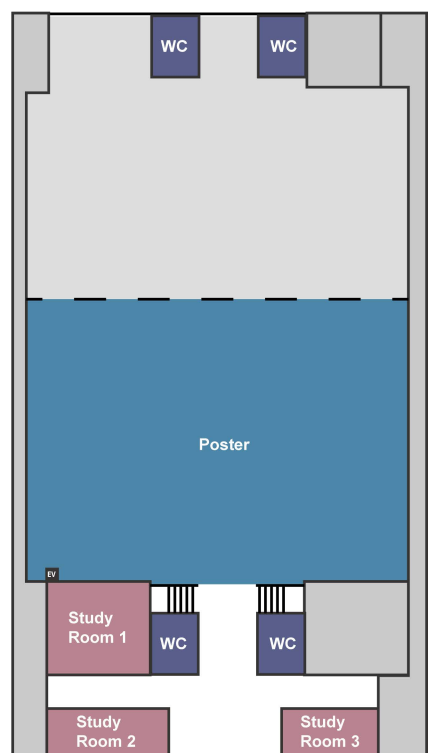
幕張メッセへの連絡通路へ

幕張メッセ国際会議場

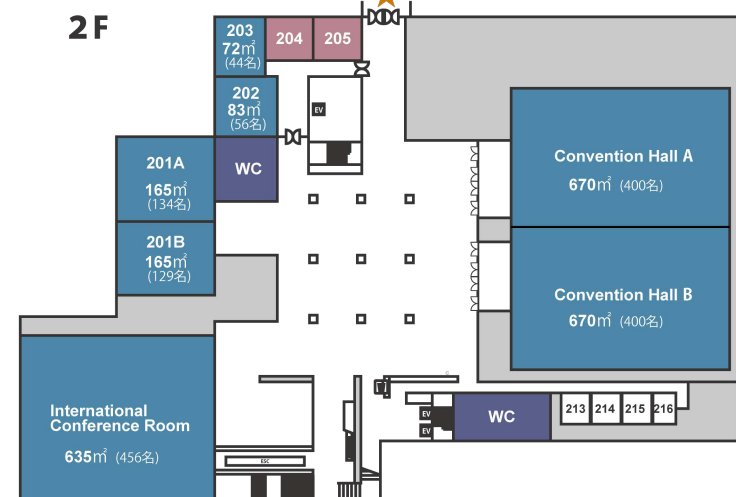
3F



展示ホール6

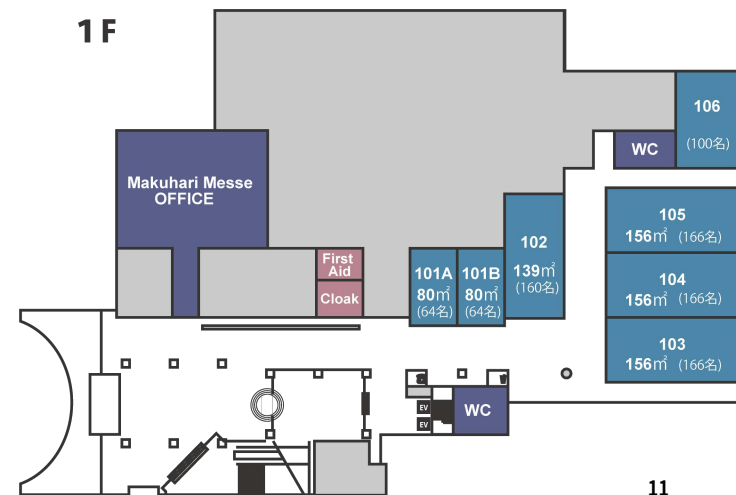


2F

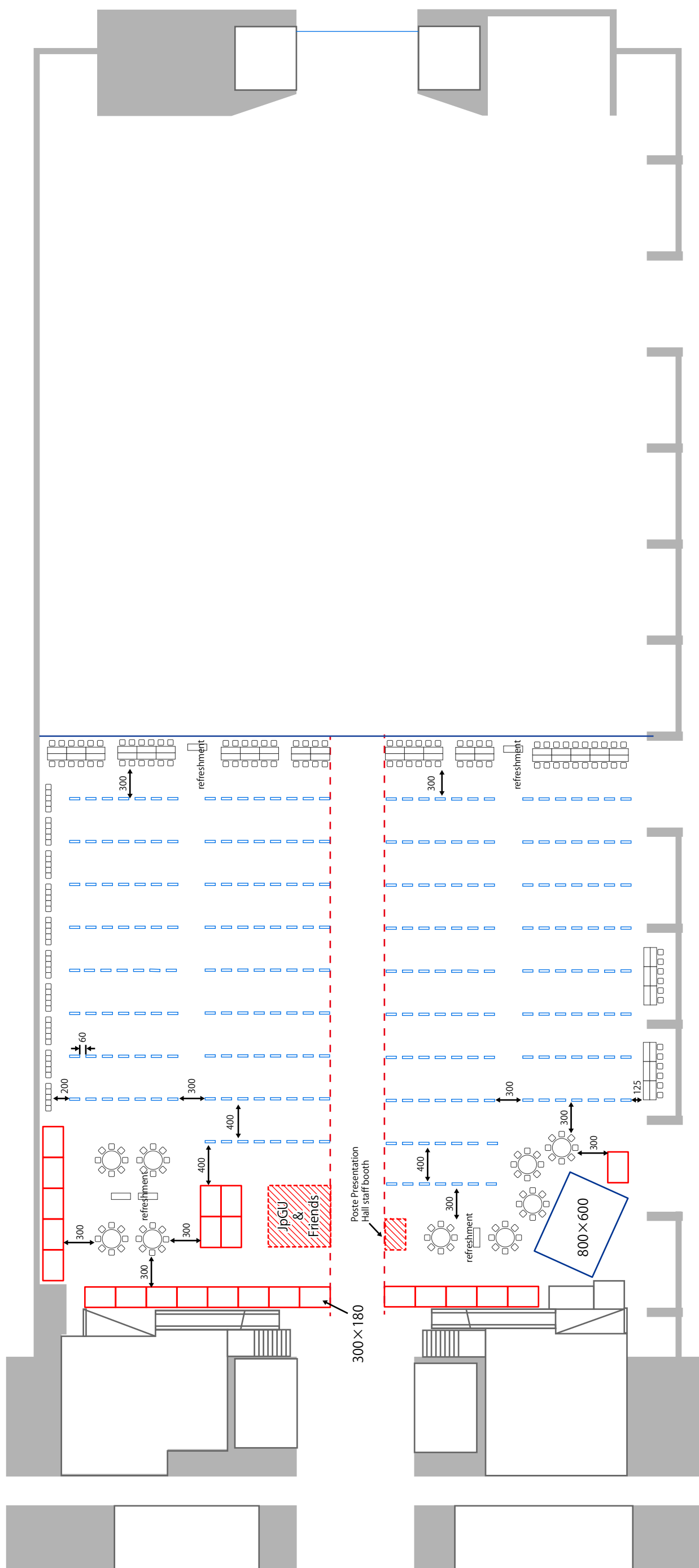


アパホテル&リゾートへの連絡通路へ

1F



展示ホール使用案



	ポスターボード W90mm	508面
	展示ブース 300×180mm	23コマ
	展示ブース 壁無	
	イス	50脚
	イス&丸テーブル	9セット/72脚
	イス&角テーブル	27セット/108脚
	プレゼンブース	1エリア

大会参加費改訂について

日本地球惑星科学連合大会に参加される皆様へ

2015 年 9 月

会長 津田敏隆
財務委員長 北和之

日本地球惑星科学連合（以下，“連合”）は、毎年連合大会を開催し、地球惑星科学の様々な分野に携わる多くの方々の成果発表や交流の機会を提供してきました。さらに地球惑星科学コミュニティの継続的な発展に貢献するた、また連合大会に参加される皆様へのサービスの向上を目指し、新たに幾つかの方策を考えています。

具体的に申し上げますと

- [1] 連合大会の国際化
- [2] 電子的サービスの更新・拡充
- [3] 連合大会会場の拡大

が挙げられます。

さらに、これらのサービスを安定的に実現するためには連合の運営を支える

- [4] 事務局の事務処理能力増強（事務局員の増員）

も考えなければなりません。

現時点で毎年の連合の支出と収入は釣り合っていますので、これらの方策を実施するためには新たな資金が必要となります。

そこで財務委員会に必要な経費を計算いたしました。結論を申し上げますと、これらの方策を行う為には向こう 3 年間であわせて 7200 万円の新たな支出が必要となります。理事会としては、この支出増を連合大会の参加費、およびその他の収入によって賄う事を参加される皆様にご納得いただき、連合財政の健全性を維持しつつ、サービスを向上させることが責務であると考えます。

必要な支出は以下に述べますように年ごとに凹凸があります。特に AGU との共催にかかる費用は 2017 年度、新しい電子サービスの導入にかかる費用は 2016 年度に突出しており、他の項目は 3 年間に跨がっています。これに対し、凹凸に連動して大会の参加費を年ごとに变化させることは、年度をまたがって決済する費用の存在や参加者の皆様の混乱の可能性など、大会運営の安定性を損なうおそれがあります。そこで、理事会と致しましては 3 年間の新たな総支出 7200 万円を均等割して年間 2400 万円の支出増とし、これを皆様の参加費の増加分および他の収入によって賄う事を提案させて頂きます。以下に具体的な支出増の見積もりを項目毎に述べます。増加分はどれも 3 年間の平均値として示してあります。

[1] 連合の国際化

連合は、大会での国際セッションなど、かねてより国際化を推進しており、日本の研究成果のグローバルな発信や注目度の向上、また国際的な研究交流の一助としたいと考えています。この国際化の重要な一環として、2016 年及び 2017 年の大会において AGU との大会共催を計画しています。具体的には、2016 年大会では AGU との共同セッションを 10 ないし 15 開催し AGU 会員の参加を促します。2017 年大会は AGU との共同開催という形で実施します。

2017 年に AGU を連合のパートナーとして受け入れ共同開催するためには、AGU と連合双方が資金の負担をする必要があり、連合側では総額 1950 万円の資金を用意しなければなりません。この金額を 3 年間で平均して充当すると年間約 650 万円(①)となります、これは大きな出

費ではありますが、今回の AGU との共催をきっかけに将来的には AOGS, EGU との共催への発展など、将来のより一層の国際化に進むための一歩であると考えます。

[2] 電子サービスの更新・拡充

AGU との共催に伴い、海外からの大会参加者は、2016 年には 300 人程度、2017 年には 500 人以上増える見通しです。これらの大会では連合の投稿システムとプログラム編成システムを使用しますが、現在のシステムはもともと様々な問題を抱えていた上に、AGU との情報のやりとりを行なう上で技術的な問題があり、AGU との共催を機会に新しい電子サービスを導入することを決断しました。この新サービスでは、連合会員及び AGU 会員の皆様の投稿や参加登録、コンピーナーによるセッション提案やプログラム編成作業をより容易にすることができ、大会登録を大会中も可能にし、制限付きながら参加登録後のキャンセルにも対応できるよう考えています。またセキュリティも改善できる予定です。導入時には 1100 万円程度の出費を伴いますが、それ以降の年度における経費削減効果が見込まれます。2017 年以降の経費削減を勘案し、3 年間で均等割しますと年間約 320 万円(②)となります。

[3] 会場の収容能力の拡大

連合大会は 2003 年から幕張メッセの国際会議場を使用してきました。大会規模は年々拡大し、参加者も増加しています。そこで、2014 年はパシフィコ横浜の会議施設、2015 年は幕張メッセ国際会議場に加えてアパホテルの会議施設を利用する等、講演会場を増やす工夫をしてきましたが、やはり会期中に 4000 件を超える講演を現行の口頭発表主体の方式で実施することは難しく、アンケートでもパラレルセッションの数を減らし聞きたい講演が重ならないようにしてほしいというご意見が多く見られます。限られた期間の中で多くの皆さまに研究成果を発表して頂き、またより多くの講演を聴く機会を増やすためには、AGU や EGU のようにポスター発表を重視した方式に移行していく必要があると同時に会場の収容能力を高める必要があります。2016 年以降の会場としては、これまでの幕張メッセ国際会議場、アパホテルの会議施設に加え、ポスター会場として幕張メッセ国際展示場のホールを借りることを予定しています。これにより、ポスター発表数の増加と口頭・ポスター発表共に会場の混雑緩和が期待できます。また 2017 年にはさらに大きな会場を必要とします。この為に必要な経費は平均して年間約 1240 万円(③)となります。

[4] 事務局の事務処理能力増強

現在、連合事務局は、浜野理事を事務局長（代行）とし、6 名の事務局員が総務、財務、連合大会運営、国際化対応、電子サービス対応を担当し、連合大会準備の他、日本学術会議への対応や国内外のコミュニティへの連絡および意見の集約など、様々な地球惑星科学の活動をサポートする仕事を行なっています。連合大会規模の増大や連合が新たな活動を行なう中で、現在の事務局の処理能力には限界が来ていると考えています。さらに上記の新たな方策を実行に移し、特に国際化、電子サービスの拡充を行うためには、これらの部門の人的強化を図らねばなりません。具体的には、現状の事務局長（代行）+ 6 名体制から事務局長（代行）+ 8 名体制に移行したいと考えています。この為には年間約 190 万円(④)の資金が必要となります。

ここまで述べました新たに必要となる資金（①～④）を総計しますと、冒頭に述べましたように年間 2400 万円の新たな収入が必要になります。

以上の事情をご理解頂き、連合大会をより良いものにしていくために、参加される皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、2019 年以降の連合大会においても、国際化、電子サービスの拡充、会場の収容能力拡大、事務局の強化などの必要性は変わらないと考えていますが、会員の皆様のご意見を元に、2016 年から 2018 年にかけて行う改革の評価を行っていく所存です。それに基づいて、連合理事会は皆様の声を反映した新たな連合を目指して邁進いたします。そこでも受益者負担の原則に基づく連合の健全な運営を図っていくことに変わりはありません。

また、連合は、平成 23 年度から参加費収入等に係る消費税を納税しております。これは、内税表示として参加費に含める形で、参加者の皆様から徴収しておりました。ご存じの通り、消費税は平成 26 年 4 月に 5%から 8%に税率が引き上げられ、平成 29 年 4 月 1 日には 10%に引き上げられることになっています。これまでこの消費税分について参加費等の値上げは行なってきませんでした。この度の参加費値上げに際し、連合大会運営のために必要な費用と参加

費の値上げ額との関係を明確に示し、また今後の消費税の税率変更による諸経費の増大が連合の運営を圧迫せず参加費本体の値上げに結びつかないようにするため、大会参加費など、皆様に代わって連合が消費税を支払っている費目に関しましては、今後消費税を外税として表示させていただきたいと考えております。

地球惑星科学連合(以下連合)大会参加費値上げに対する Q&A

Q. 2014 年大会から参加費値上げをしましたが、さらにまた値上げをする必要性はあるのでしょうか？

A. 2014 年大会より、ほぼ 4000 件の講演を実施できるよう大会会場を拡大し、また大会アプリなどの参加者へのサービス向上や各種褒賞制度の立ち上げなどの活動強化を行なってきました。そのために必要な支出の増大は 2014 年度以降の参加費値上げにより賄われ、現在の連合予算では収入支出はほぼ均衡しています。しかしながら、国際学会と比較すると現状のサービスはまだ不十分であるとのコメントも頂いています。そこで連合では、次のステップとして、連合大会参加者へのサービス向上のためのさらなる会場拡大や WEB システムの抜本改善、連合大会国際化の一環としての AGU との連携、これらの活動を支える事務局能力の増強を目指しており、そのためには今回の参加費値上げをせざるを得ないという判断となりました。より具体的に申し上げますと、聴講者の人数に対して狭い部屋がある、ポスターセッション会場で個々のポスターのスペースが狭いなどのご指摘に対し、大きく改善を行う必要があります。ポスターセッションの拡充は、パラレルセッションを減らし、より多くの講演を聴講可能にしてほしいという要望にも応えるものです。WEB システムについても、毎年度改修をしてしのいできましたが、全体の抜本的な改善をしないといけないう段階になってきています。このような状況を、ご理解いただけますようお願いする次第です。

Q. 参加費だけを値上げするのではなく、割安な会費を値上げした方が連合運営が安定になるのではないのでしょうか？

A. 連合は、発足当時から加盟する諸学協会との共存・発展という方針をつらぬいています。多くの連合会員の皆様が、複数の加盟学協会の会員でもあることを考慮し、経済的負担を減らすべく会費を低く抑える方針をとってきました。また、所属機関により多少の違いはあるのですが、現在、大会参加費であれば大部分の参加者が所属機関の予算から支払うことが可能であると認識しています。そこで、個人負担を増やさないようにするため、参加費の値上げを選択することにしました。

Q. 何度も値上げをして会員に負担を強いるのは安易なやり方に感じます。連合の活動を精選するなど、十分な経費削減の努力を行なっているのでしょうか？

A. 連合の支出の中で、連合大会の準備および実施にかかる費用がおよそ 42%を占めています。これは大会の規模(具体的には借りる会場の広さ)でほぼ決まってしまう。プロジェクターやポスターパネルなど付帯設備使用料などの必要経費も、会場数や講演数に比例します。連合大会会場の選定に際しましては、開催時期および部屋数や面積等の条件を満たした上で、できるだけコストを下げるよう経費削減の努力を行なってきました。同じ会場施設での開催が多くなっていますが、会場を移動することで準備等に係る経費の増加や、ある程度継続して施設を使用することで会場施設の方から受けられるサービス(割引)をも考慮した結果であり、連合では、これまで経費削減のための努力を惜しまずやってきたという自信はあります。次に、通信費、オフィス賃借料や事務局スタッフの給与など事務局で要する費用やクレジット

カード払い手数料や消費税、WEBシステム維持改善費などの固定的経費の合計が、支出のおよそ37%となっています。現在の連合事務局は、国際的な学会を定期的に開催する組織としては、AGU, EGUなどの諸学会と比べるべくもない小規模なものであり、仕事量に対し事務処理能力やオフィス面積はパンク寸前で、むしろ増強しないと今後連合の活動が維持できない状況です。参加者の皆様による諸費用の支払いにつきまして、現金や銀行振込みなどに比べ利便性が高いクレジット払いが年々増加していますが、その手数料負担も増加しているのが現状です。

なお、今回予定しているWEBシステムの抜本改善は毎年の固定経費を減らす効果があると考えています。また消費税につきましては、税率上昇が予定されているため外税表示とします。残りの21%が、各種委員会の活動や雑誌(PEPS)、各サイエンスセクションの活動経費に充てられています。各サイエンスセクションの方からは、もっと活動を盛り上げたいというような要望が寄せられていますが、予算不足により新規活動を抑制せざるを得ない状況です。

このように、日々節約には努めていますが、大会規模の拡大や各種事業の増加とそれを支える事務局補強を考えると、費用節減には限界があり、今回値上げする次第となっていること、ご理解いただけますようお願いいたします。

Q.なぜ連合大会の参加費は、他の諸(国内)学会にくらべて高いのでしょうか？

A.連合大会は規模が大きく、大学等を借りて会場とすることが難しいため、比較的大規模な民間の会場施設を借りて開催しています。

しばしば、大学で開催することで経費を低く抑えることができるのではないかというコメントも寄せられていますが、近年では大学でも外部機関に会場を貸し出す場合には相当な額を請求するケースが多くなっています。また、連合大会はさまざまな理由から5月に開催していますが、大学では授業が行われていることもあり、この時期に十分な広さの会場を確保することはほぼ不可能です。

現在使用している民間の会場施設は、国際会議等を実施するのと同等のグレードとなっていますが、連合大会参加料金は通常の国際会議等と比較しますと半額あるいはそれ以下となっています。これは細部にわたる経費節減によるものです。今後、さらに参加者の皆様からの要求に応えるべく会場やサービスの拡充を行うには、どうしても費用が増加してしまうことをご理解いただければと存じます。

また、連合は会費を低く抑えているため、大会参加費により、大会開催だけでなく連合の諸活動の費用の相当分が賄われています。

会費と年会参加費を合計した費用負担で考えますと、連合と国内の同程度の規模の学会とは同程度となっています。このように連合参加費は、連合による我が国の地球惑星科学の維持・発展に資する重要な活動をも支えているという事情もご理解いただければと存じます。

Q.収益事業や寄付など、大会参加費以外に収入増加の手段は無いのでしょうか？

A.連合は公益法人であり、収益事業の実施には制限があります。利益のみを目的とした事業は基本的に実施できません。

また、新たな事業を行なうために必要なマンパワーや費用を考えると、なかなか実際に連合の運営にプラスになる事業は無いのが現状です。

本件について、良いアイデアがあれば連合理事会においても積極的に検討したいので、ぜひご提案ください。

また賛助会員となる企業の増加や寄付の増額にも努力を行なっていますので、こちらにもご支援をいただければ幸いです。

Q.国際化など、連合は派手で費用のかかる方向を指向しているように思われますが、本当に会員のためになるのでしょうか？

もっとコンパクトな運営を目指し、会員の経済的負担を減らす方向を目指すべきではないのでしょうか？

A. もちろん、よりコンパクトでお金のかからない連合を目指した運営という選択肢もあるかもしれませんが、しかし、現在日本の地球惑星科学に求められている世界への貢献は、その最先端の成果のより積極的な発信や、国際的な研究機会の増加であると考えます。学会による主な

海外への情報発信機会として、国際ジャーナルと国際的研究集会がありますが、ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science」が軌道に乗りつつある中、連合大会も一層国際化を進めることによって、参加者の皆様の研究成果のグローバルな発信や注目度の向上を目指し、また国際的な研究交流の機会を増やしていきたいと考えています。それにより、連合大会の価値を高め、日本の地球惑星科学コミュニティに貢献したいと考えております。また、現在および近い将来の日本の課題として、日本の研究者の人口減少が挙げられます。それに対応して、アクティビティの維持や、今後より増加していくであろうアジアの研究者の参加機会の増加を目指すためにも国際化は重要です。この活動方針に関する会員の皆様の評価は、2016年、2017年大会でのAGUとの共同セッション・共催が成功するかどうかによって表れると考えております。なお連合大会では、日本語で行なわれるセッションについても軽視してきたことはありません。英語で行なわれる国際セッションの割合は当面50%までを目指しております。

Q. また値上げをするのではないのでしょうか？

逆に、AGUとの共催が終わる3年後には、値下げすべきではないのでしょうか？

A. 連合では、今後の3年間について、いくつかの境界条件を設定し収支計算を綿密に行ってきました。その結果、少なくとも3年間については、これ以上の値上げを行わず運営ができる見込みとの結論に至りました。その後については、今回のAGUとの共催の評価を踏まえて検討したいと思っておりますが、今後のAGUとの連携、さらなるEGUやAOGSとの連携など、様々な選択肢があり、現在のところどうなるとは言えません。但し、参加費の値下げも会員への大きなサービスであるとの認識は強いので、収入増に応じて安易な支出を行うということはありません。そもそも公益社団法人日本地球惑星科学連合を作った時の趣旨である、日本および世界の地球惑星科学の発展に資するためにどのようにすべきか、といった観点から議論されるかと思えます。

Q. 今回の値上げにより、具体的に大会サービス(会場の数・広さなど)が、どのように向上するのでしょうか？

A. 大会会場に関しましては、口頭発表の講演会場についても、ポスター発表会場についても、毎年のように狭いという御意見がありました。今回ポスター会場として幕張メッセ国際展示場ホール（2016年は1 / 2ホール）を使用することで、これまでの倍の広さになります。口頭講演会場については、これまでポスター会場として使用してきたスペースを分割して口頭講演に使用し、また会場数を確保するために分割して使っていた小さい部屋をまとめることで、皆様の要望にあった大きさの部屋を提供出来ると考えています。但し、口頭講演会場数には限りがありますので、2016年からはポスター発表を是非これまで以上に活用いただくように、よろしくお願いします。

Q. 今回導入される新しい電子サービスやWEB登録システムでは、具体的にどのような面が改善されるのでしょうか？

A. WEB登録などを行う従来のオンラインシステムは、連合大会開催のための予稿投稿、プログラム作成、参加受付などの業務の全部をカバーできておらず、多数の手作業が発生しておりました。2010年より改修を重ねてきましたが、近年の会員数の増加、今後の国際対応作業の増大などに対応できるか憂慮されておりました。新しいシステムにより、今後も支障なく大会運営が可能になり、かつ利便性が向上し、情報漏えいの心配も減らせると考えております。予稿投稿システムは、プログラム編成等の作業がより容易に可能になり、またその他当日受付システム、大会アプリなどこれまで独立に管理されていたサービスも統合・連携が可能になるため、これまで以上に便利に使っていただけるようになると考えております。またプログラム編成作業の時間短縮が可能となるため、セッションの準備や海外からの講演者招聘にいままでより余裕をもったスケジュールでのぞめるようにしたいと考えております。

2015 年大会報告と 2016 年大会へ向けて

大会運営委員会委員長・連合事務局長代行 浜野洋三

2000 年の合同大会運営機構の発足から 15 年間にわたって合同大会／連合大会の実施と運営に尽力された谷上前事務局長の後を受けて、この 2 月から事務局長代行を兼務することになりました。

2015 年大会は、幕張メッセ国際会議場全館に加えてアパホテルの会議施設も使用し、5 月 24 日(日)～ 28 日(木)の 5 日間の日程で開催されました。今大会のセッション数は 189(内国際セッション 55)、発表論文数は 4,037 件(内国際セッション 988 件)でした。口頭発表には国際会議場の 18 会場とアパホテルの 5 会場を 5 日間(追加でアパホテルの 1 会場を 1 日間)用意しましたが、どの会場も早朝から夜までほぼ埋まっているという盛況で、通常セッションの参加者だけでも 5,271 名にのぼりました。また、日曜日の一般向け催しについては、例年行なわれているパブリックセッション「高校生ポスター発表」に加え、アメリカ航空宇宙局 (NASA) と宇宙航空研究開発機構 (JAXA) による講演や科学実験に千葉市と千葉県の中学生を招待する初めての試みがなされるなど、アウトリーチ活動も年々活発になってきています。なお、今年は連合が誕生してから 10 周年、連合大会の前身の地球惑星科学関連学会合同大会が始まってから 25 周年ということで、昨年に引き続き表彰式や関連行事が行なわれました。特に、アジア、ヨーロッパ、アメリカの地球惑星科学コミュニティーを代表する 4 学会 (JpGU, AOGS, EGU, AGU) 共催のユニオンセッション「Geoscience Ahead」では、各学会長が現在の動向と未来への挑戦を紹介し、最後のパネルディスカッションでは 4 学会の共同声明が採択されました。このように 2015 年大会を盛況の内に無事終えることができましたことを、すべての関係の皆様に深く感謝致します。

日本地球惑星科学連合は、受益者負担の原則に基づき、連合大会に参加する個々の皆様の参加費・投稿料によって運営・維持されています。大会参加者が負担する大会開催に関わる費用としては、事務局員を始め大会の準備・運営に関わるアルバイトの方々の人件費と、大会の会場や設備の使用料が大きな割合を占めます。事務局を中心とした大会運営に携わるメンバーは、皆様の付託を受け、限られた資源の中で最も実り多い大会が実施できるよう、企業・研究機関・大学展示の充実、大会アプリの提供を始めとしたサービスの向上等、様々な努力をしています。

連合大会は 2003 年から幕張メッセの国際会議場を使用してきましたが、大会規模は年々拡大し、参加者も増加してきました。講演数が 4000 件に近づいてきた 2011 年頃からは、収容能力の限界に近づき、全館貸し切りでも講演会場やポスター会場が足りず、これ以上の講演数の増加には対応できない状況となってきました。そこで、2014 年はパシフィコ横浜の会場、2015 年は、幕張メッセ国際会議場に加えてアパホテルの会議施設を利用する等、講演会場を増やす工夫をしてきましたが、やはり 4000 件を超える講演を現行の口頭発表主体の方式で実施することは難しく、今後連合が更に拡大発展していくためには、何らかの改革をせざるを得ません。ちなみに、口頭発表とポスター発表の割合は米国地球物理学連合 (AGU) では 1 対 3、欧州地球科学連合 (EGU) では 1 対 2 であるのに対して、日本地球惑星科学連合 (JpGU) では 1 対 0.5 (2015 年) となっています。多くの皆さまに研究成果を発表して頂くためには、AGU や EGU のように、ポスター発表を重視した方式に移行していく必要があります。

このような状況の下、2016 年及び 2017 年の大会においては、国際化推進の一環として AGU とのコラボレーションを計画しています。具体的には、2016 年大会では AGU との共同セッションを 10 乃至 15 開催し、AGU 会員の参加を促します。2017 年大会は AGU との共同開催という形で実施します。これに伴い、海外からの大会参加者は、2016 年には 300 人程度、2017 年には 500 人以上増える見込まれています。問題は、2016 年及び 2017 年大会では JpGU の投稿システムとプログラム編成システムを用いることになっているので、これらのシステムを大幅に改修するか新しいシステムを導入する必要があります。

以上述べたように、2016 年からの連合大会を開催するためには、事務局の体制を国際化に対応できるように増強し、投稿システムを大幅改修乃至新規導入することに加えて、会場の収容能力を高める必要があります。そこで、2016 年の会場としては、これまでの幕張メッセ国際会議場、アパホテルの会議施設に加え、ポスター会場として幕張メッセ国際展示場のホールを借りることを予定しています。また 2017 年にはさらに大きな会場を必要とします。これらのために必要な経費は、2016 年から 2018 年までの向こう 3 年間で、2015 年の支出額に対して約 8000 万円増となります。これは、約 5000 人が参加した 2015 年大会の参加登録料収入の 1.25 倍に相当し、期待される参加者増だけでは到底賄いきれません。従って、現実の問題として、参加登録料を値上げしなければ、連合大会の開催が危うくなってしまいます。値上げ幅等に関しては今後の理事会で検討する予定ですが、公益法人の原則に従い、大会開催に必要な経費に見合う参加登録料を負担して頂くこととなります。是非とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。さらには、連合の今後の運営等についての、皆様の積極的なご意見をお願い致します。

2016 年連合大会参加登録料

種別		早期参加登録料 2016 年 5 月 10 日(火)17:00 まで		参加登録料 2016 年 5 月 10 日(火)17:00 より 5 月 26 日(木)まで	
		全日程	一日券	全日程	一日券
一般	会員割引料金	¥ 21,000 (¥ 22,680)	¥ 13,000 (¥ 14,040)	¥ 28,000 (¥ 30,240)	¥ 18,000 (¥ 19,440)
	正規料金	¥ 30,000 (¥ 32,400)	¥ 21,000 (¥ 22,680)	¥ 40,000 (¥ 43,200)	¥ 25,000 (¥ 27,000)
小中高教員	会員割引料金	¥ 11,000 (¥ 11,880)	¥ 7,000 (¥ 7,560)	¥ 15,000 (¥ 16,200)	¥ 10,000 (¥ 10,800)
	正規料金	¥ 18,000 (¥ 19,440)	¥ 13,000 (¥ 14,040)	¥ 24,000 (¥ 25,920)	¥ 18,000 (¥ 19,440)
大学院生・研究生	会員割引料金	¥ 11,000 (¥ 11,880)	¥ 7,000 (¥ 7,560)	¥ 15,000 (¥ 16,200)	¥ 10,000 (¥ 10,800)
	正規料金	¥ 18,000 (¥ 19,440)	¥ 13,000 (¥ 14,040)	¥ 24,000 (¥ 25,920)	¥ 18,000 (¥ 19,440)

※外税として消費税 8%をいただきます。カッコ内が税込料金です。

JpGU ジャーナルの進捗状況報告

H27/10/8 第 13 回学協会長会議資料（PEPS 関連）

1. 8/27 H27 年度第 3 回編集長会議開催

- ・出版制作にかかる時間が改善され、出版は順調。夏場の投稿が少なく、現在のペースでは年間の投稿数は 80 編程度と予想される。しかし、今後、連合大会特別セッション、高圧 SPEPS や INQUA 関係の論文の投稿が見込まれるので、年間 100 編に達する可能性がある。引用数も上がってきているが、WOS 採録申請へむけさらに被引用数を高める施策を進める。
- ・Springer で論文本体の前にキャッチーな図表を表紙として付ける事が可能となり、PEPS としては導入の方向で検討する。また、査読システム上、全ての投稿論文に自動的に CrossCheck が実行され、編集者がシステム上で確認可能となった。（従来、投稿時に事務局にて手作業で実施）
- ・新しい分野として、Data Publishing の出版に取り組んでいく。まずは、Springer の添付ファイルに収まるサイズのデータを扱う。
- ・現在出版されている論文にかかるコスト（出版料・英文校閲・招聘旅費など）が平均約 23 万円となっている。中間報告に向けて、ルーチンに入った 2015 年度以降に英文校閲にかかった経費について、依頼条件とともに概算をまとめる。
- ・5/27 の学協会長会議において、学術会議から各学会誌に対し規定整備・公開が求められた、不適切な Authorship と二重投稿に関して、編集委員会に諮り、その結果をまとめ、次回の学協会長会議（10 月 8 日）で示す。

2. 2016 年度連合大会「ジャーナル関連特別セッション」募集開始

JpGU ニュース 9 月号にて案内（10 月 23 日募集締切）

2014 年以降、特別セッションと併せて 33 名の著名研究者を招待し、2015 年 8 月末で 21 論文投稿（内レビュー 14 論文）の投稿があった。一定の成果が見込めるため、2016 年度連合大会においても「ジャーナル関連特別セッション」を募集する。

3. 論文投稿・出版状況（詳細は別表参照）

- ・論文投稿数
 - ～2014 年 72 (editorial-3, Correction-1, Research/Methodology-47, Review-21)
 - 2015 年 ～48 (Research-10, Methodology-1, Review-5)
- ・出版論文数
 - ～2014 年 29 (editorial-3, Correction-1, Research -18, Review-7)
 - 2015 年 ～23 (Review-9, Research-14)

- ・査読中 29 (Review-11, Research-17, Methodology-1)
- ・出版校正中 5 (Review-1, Research-4)
- ・reject/withdrawn 済 34 件

Progress in Earth and Planetary Science 出版・投稿状況

(2015/8/31 現在)

■出版状況

	2014				2015				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	2 8.0%	1 4.0%	0 0.0%	3 12.0%	4 17.4%	5 21.7%	0 0.0%	9 39.1%	6 12.5%	6 12.5%	0 0.0%	12 25.0%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	2 8.0%	5 20.0%	0 0.0%	7 28.0%	1 4.3%	1 4.3%	0 0.0%	2 8.7%	3 6.3%	6 12.5%	0 0.0%	9 18.8%
3. Human geosciences	0 0.0%	2 8.0%	0 0.0%	2 8.0%	1 4.3%	1 4.3%	0 0.0%	2 8.7%	1 2.1%	3 6.3%	0 0.0%	4 8.3%
4. Solid earth sciences	2 8.0%	9 36.0%	0 0.0%	11 44.0%	1 4.3%	4 17.4%	0 0.0%	5 21.7%	3 6.3%	13 27.1%	0 0.0%	16 33.3%
5. Biogeosciences	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	1 4.3%	1 4.3%	0 0.0%	2 8.7%	2 4.2%	1 2.1%	0 0.0%	3 6.3%
6. Interdisciplinary research	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	1 4.0%	1 4.3%	2 8.7%	0 0.0%	3 13.0%	1 2.1%	3 6.3%	0 0.0%	4 8.3%
Subtotal	7 28.0%	18 72.0%	0 0.0%	25 100%	9 39.1%	14 60.9%	0 0.0%	23 100%	16 33.3%	32 66.7%	0 0.0%	48 100%
Editorial Correction	-	-	-	3 1	-	-	-	-	-	-	-	3 1
Total				29				23				52

■投稿状況

	～2014				2015				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	8 11.8%	9 13.2%	0 0.0%	17 25.0%	3 6.3%	8 16.7%	1 2.1%	12 25.0%	11 9.5%	17 14.7%	1 0.9%	29 25.0%
2. Atmospheric and hydrospheric sciences	5 7.4%	7 10.3%	0 0.0%	12 17.6%	1 2.1%	5 10.4%	0 0.0%	6 12.5%	6 5.2%	12 10.3%	0 0.0%	18 15.5%
3. Human geosciences	1 1.5%	4 5.9%	0 0.0%	5 7.4%	0 0.0%	2 4.2%	0 0.0%	2 4.2%	1 0.9%	6 5.2%	0 0.0%	7 6.0%
4. Solid earth sciences	3 4.4%	18 26.5%	1 1.5%	22 32.4%	5 10.4%	15 31.3%	1 2.1%	21 43.8%	8 6.9%	33 28.4%	2 1.7%	43 37.1%
5. Biogeosciences	2 2.9%	3 4.4%	0 0.0%	5 7.4%	0 0.0%	2 4.2%	0 0.0%	2 4.2%	2 1.7%	5 4.3%	0 0.0%	7 6.0%
6. Interdisciplinary research	2 2.9%	5 7.4%	0 0.0%	7 10.3%	4 8.3%	1 2.1%	0 0.0%	5 10.4%	6 5.2%	6 5.2%	0 0.0%	12 10.3%
Subtotal	21 30.9%	46 67.6%	1 1.5%	68 100%	13 27.1%	33 68.8%	2 4.2%	48 100%	34 29.3%	79 68.1%	3 2.6%	116 100%
Editorial Correction	-	-	-	3 1	-	-	-	-	-	-	-	3 1
Total				72				48				120

■編集状況

	Review	Resarch	Methodology /Debate	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	16 13.8%	32 27.6%	0 0.0%	48 41.4%	4	52
Accepted and tranferred for publication	1 0.9%	4 3.4%	0 0.0%	5 4.3%	0	5
Under review	11 9.5%	17 14.7%	1 0.9%	29 25.0%	0	29
Rejected/Withdrawn	7 6.0%	25 21.6%	2 1.7%	34 29.3%	0	34
Total	35 30.2%	78 67.2%	3 2.6%	116 100.0%	4	120

「日本の国際誌出版活動の見える化」

背景：5月の連合大会「Geoscience Ahead」で AGU, EGU, AOGS の President による講演があった。その中で、各々のジャーナル出版の紹介があり、AGU, EGU では各々十数雑誌の出版活動を行っているとの発表があった。JpGU は現在 PEPS のみの出版であるものの、「日本の地球惑星科学に関する学協会」あるいは「(公) 日本地球惑星科学連合」という枠組みにおける国際誌の出版活動は、実は十数雑誌であるので、AGU, EGU と同等とも考えられる。

これまでの経緯：JpGU のロゴを掲載している 5 雑誌について、AGU, EGU, 国際学会でジャーナルのブースを開設した場合には、紹介につとめてきた。

目的：「日本の地球惑星科学に関する学協会」あるいは「(公) 日本地球惑星科学連合」での出版活動の「見える化」を推進。

提案：

- 1) JpGU 参加学会での国際誌について、ロゴの掲載のお願い。
「ロゴの掲載」の雑誌について、
- 2) AGU, EGU, 国際学会でジャーナルのブースを開設した場合には紹介に努める。
- 3) 「科学研究費補助金（研究成果公開促進費）」を用いて、ロゴの掲載の雑誌と PEPS について、外部の専門会社に委託して、JpGU の HP に Promotion サイトを作り、website でロゴ掲載の国際誌の紹介するを行う。

付随する資料

資料 1. ロゴ掲載契約文書

<http://www.jpгу.org/sciencemagazine/>

資料 2. JpGU および参加学会における国際誌のリストと AGU, EGU, AOGS の国際誌の情報

資料 1. ロゴ掲載契約文書（案）

日本地球惑星科学連合ロゴ掲載についての覚え書き

2012 年 1 月 30 日制定

「xxxxxx」誌（以下 xxxxxxxx 誌と略す）は yy 学会の共同刊行による学術論文誌である。本誌に日本地球惑星学連合のロゴを掲載することに関連して、各学会を代表する EPS 誌運営委員会（以下、甲と略す）と日本地球惑星科学連合（以下、乙と略す）とは、日本の地球惑星科学の研究成果の国際発信と学界の国際化を推進するために以下の協力を行うことについて合意する。

1. 甲は xxxxxx 誌の平成 24 年 1 月号（Vol. 64, No. 1）以降の出版物について乙の学会ロゴを入れる。ロゴ配置のデザインについては別途定めるが、甲が提案し、乙が承認を行う。
2. 乙は学会ホームページおよび学会広報誌などによって邦文および英文による EPS 誌の国内外への広報に努める。また、乙は連携している国際組織等に働きかけて EPS 誌の広報に努める。
3. 甲は、乙に対し、xxxxxx 誌の表紙画像、広報用本誌、広報原稿を無償で提供する等、乙の前条広報活動に協力するよう努める。
4. 平成 25 年以降の協力体制については、EPS 誌出版状況等を勘案し調整を行う。ただし、甲あるいは乙から申し出が無い限り本覚え書きの内容は毎年継続されるものとする。

平成 24 年 1 月 30 日

（甲）xxxxxx 誌運営委員会

議長 xxxxxx xxxxxx

（乙）公益社団法人日本地球惑星科学連合

会長 木村 学

資料2. JpGUおよび参加学会における国際誌のリストとAGU, EGU, AOGSの国際誌の情報

JpGU Journals	IF	OA	出版学会
PEPS(Progress in Earth and Planetary Science)			JpGU+JpGU参加50学会
JpGU Partnered Journals	IF	OA	出版学会
The Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)	0.742	- Open Access	日本鉱物学会 (Japan Association of Mineralogical Sciences)
Earth Planets and Space (EPS)	1.328	- Open Access	地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本地震学会, 日本火山学会, 日本測地学会, 日本惑星科学会
Geochemical Journal (GJ)	1.505	- Open Access	日本地球科学会
Journal of Agricultural Meteorology	2013採録2016より算出	- Open Access	日本農業気象学会
Hydrological Research Letters	2007年出版	- Open Access	水文・水資源学会
AGU journal	IF	OA	
Earth and Space Science	2014Dec出版	- Open Access	
Earth's Future	2014Dec出版	- Open Access	
Geochemistry Geophysics Geosystems	2.923	X	
Geophysical Research Letters	4.196	一部のarticle	
Global Biogeochemical Cycles	3.965	一部のarticle	
Journal of Advances in Modeling Earth Systems (JAMES)	4.299	- Open Access	
Journal of Geophysical Research*(JGR)	3.426	一部のarticle	
Atmospheres			
Biogeosciences			
Earth Surface			
Oceans			
Planets			
Solid Earth			
Space Physics			
Paleoceanography	3.738	X	
Radio Science	1.439	X	
Reviews of Geophysics	14.800	一部のarticle	
Space Weather	2.149	一部Free	
Space Weather Quarterly	2003出版	X	
Tectonics	3.318	一部のarticle	
Water Resources Research	3.549	一部のarticle	
*EOS(Earth and Space Science News)	1920出版	- Open Access	News
AGU Partnered Journals	IF	OA	出版国
Chinese Journal of Geophysics	1948出版	X	China
Earth Interactions	1.844	- Open Access	AMER
International Journal of Geomagnetism and Aeronomy	0.492	X	RUSSIA
Nonlinear Processes in Geophysics	0.987	X	Germany
EGU Open Access journal			
Annales Geophysicae (ANGEO)	1.709	- Open Access	
Atmospheric Chemistry and Physics (ACP) & Discussions (ACPD)	5.053	- Open Access	
Atmospheric Measurement Techniques (AMT) & Discussions (AMTD)	2.929	- Open Access	
Biogeosciences (BG) & Discussions (BGD)	3.978	- Open Access	
Climate of the Past (CP) & Discussions (CPD)	3.382	- Open Access	
Earth Surface Dynamics (ESurf) & Discussions (ESurfD)	indexed	- Open Access	
Earth System Dynamics (ESD) & Discussions (ESDD)	3.062	- Open Access	
Geoscientific Instrumentation, Methods and Data Systems (GI) & Discussions (GID)	indexed	- Open Access	
Geoscientific Model Development (GMD) & Discussions (GMDD)	3.654	- Open Access	
Hydrology and Earth System Sciences (HESS) & Discussions (HESSD)	3.535	- Open Access	
Natural Hazards and Earth System Sciences (NHESS) & Discussions(NHESSD)	1.735	- Open Access	
Nonlinear Processes in Geophysics (NPG) & Discussions (NPGD)	0.987	- Open Access	
Ocean Science (OS) & Discussions (OSD)	2.232	- Open Access	
SOIL & SOIL Discussions (SOILD)	-	- Open Access	
Solid Earth (SE) & Discussions (SED)	2.27	- Open Access	
The Cryosphere (TC) & Discussions (TCD)	5.516	- Open Access	
EGU Conference proceedings	IF	OA	
Advances in Geosciences (ADGEO)	-	- Open Access	
AOGS Journals	IF	OA	
Geoscience Letters			

A. 現在連合のロゴを掲載いただいているジャーナル
English Journals in partnership with JpGU



1. "The Journal of Mineralogical and Petrological Sciences"
Japan Association of Mineralogical Sciences (JMPS)
2. "Earth, Planets and Space"
The Society of Geomagnetism
and Earth, Planetary and Space Sciences,
The Seismological Society of Japan,
The Volcanological Society of Japan,
The Geodetic Society of Japan,
The Japanese Society for Planetary Sciences
3. "Geochemical Journal"
The Geochemical Society of Japan
4. Journal of Agricultural Meteorology
The Society of Agricultural Meteorology of Japan
5. Hydrological Research Letters
Japan Society of Hydrology and Water Resources

B. これからロゴを掲載していただきたいジャーナル
English Journals of society members

1. "Biological Sciences in Space"
日本宇宙生物科学会
Japanese Society for Biological Sciences in Space
2. "Journal of Oceanography"
日本海洋学会
The Oceanographic Society of Japan

3. "Forma"
形の科学会
Society for Science on Form, Japan
4. "Journal of the Meteorological Society of Japan"
5. "Scientific Online Letters on the Atmosphere"
日本気象学会
Meteorological Society of Japan
6. "Paleontological Research"
日本古生物学会
Palaeontological Society of Japan
7. "Resource Geology"
資源地質学会
The Society of Resource Geology
8. "Geoinformatics"
日本情報地質学会
Japan Society of Geoinformatics
9. "Eco-Engineering"
生態工学会
The Society of Eco-Engineering
10. "Bulletin of Glaciological Research"
日本雪氷学会
The Japanese Society of Snow and Ice
11. "Island Arc"
日本地質学会、日本第四紀学会、日本鉱物科学会、
日本古生物学会、資源地質学会(共同刊行)
The Geological Society of Japan,
Japan Association for Quaternary Research,
Japan Association of Mineralogical Sciences,
Palaeontological Society of Japan,
The Society of Resource Geology
12. "Geographical Review of Japan Series B"
日本地理学会
The Association of Japanese Geographers
13. "Clay Science"
日本粘土学会
The Clay Science Society of Japan CSSJ
14. "Limnology"
日本陸水学会
The Japanese Society of LIMNOLOGY
15. "Journal of the Remote Sensing Society of Japan"
日本リモートセンシング学会
The Remote Sensing Society of Japan



Japan Geoscience Union



Japan Geoscience Union

MENU

- ABOUT JpGU
- SCIENCE SECTION
- ANNUAL MEETING
- Progress in Earth and Planetary Science
- PUBLICATIONS
- REPORTS
- MEMBERSHIP
- SUPPORTING MEMBERS
- INFORMATION
- CONTACT US

Home » E » Publications

Publications

Periodical publications
Mail news
News letters(JGL)
Abstracts
Japan Geoscience Union Pamphlet
English ver.
Japanese ver.

[Information for advertisers](#)
[advertisement](#)

English Journals in partnership with JpGU



- The Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)
- Earth, Planets and Space (EPS)
- Geochemical Journal (GJ)
- Journal of Agricultural Meteorology
- Hydrological Research Letters

English Journals of society members

- Japanese Society for Biological Sciences in Space
"Biological Sciences in Space"
- The Oceanographic Society of Japan
"Journal of Oceanography"
- Society for Science on Form, Japan
"Forma"
- Meteorological Society of Japan
"Journal of the Meteorological Society of Japan"
"Scientific Online Letters on the Atmosphere"
- Palaeontological Society of Japan
"Palaeontological Research"
- The Society of Resource Geology
"Resource Geology"
- Japan Society of Geoinformatics
"Geoinformatics"
- The Society of Eco-Engineering
"Eco-Engineering"
- The Japanese Society of Snow and Ice
"Bulletin of Glaciological Research"
- The Geological Society of Japan,
Japan Association for Quaternary Research,
Japan Association of Mineralogical Sciences,
Palaeontological Society of Japan,
The Society of Resource Geology
"Island Arc"
- The Association of Japanese Geographers
"Geographical Review of Japan Series B"
- The Clay Science Society of Japan CSSJ
"Clay Science"
- The Japanese Society of LIMNOLOGY
"Limnology"
- The Remote Sensing Society of Japan
"Journal of the Remote Sensing Society of Japan"

[Back to Top](#)

Privacy Policy(Japanese) Site Map Contact

All Rights Reserved, Copyright 2005-2012 Japan Geoscience Union

次期代議員選挙に関する報告

● 選挙スケジュール

月	日	曜	進行
8月	4日	月	代議員選挙公示
	12日	水	代議員立候補受付開始
9月	14日	月	代議員立候補受付締切
	29日	火	代議員選挙投票開始
10月	8日	木	第13回学協会長会議
	28日	水	代議員選挙投票締切
11月	2日	月	代議員選挙開票結果公開 ----- セクションプレジデント選挙公示
	5日	木	セクションプレジデント選挙候補者受付開始
	16日	月	セクションプレジデント選挙候補者受付締切
	25日	水	セクションプレジデント選挙投票開始
12月	8日	火	セクションプレジデント選挙投票締切
	14日	月	セクションプレジデント選挙結果公開
	21日	月	理事候補者選挙候補者受付開始
2016年			
1月	8日	金	理事候補者選挙候補者受付締切
	29日	木	理事候補者選挙投票開始
2月	15日	月	理事候補者選挙投票締切
	2月下旬		第1回役員候補者推薦委員会
2015年選挙日程終了			

● 立候補状況

登録区分	候補者数	定員
宇宙惑星科学	18	16
大気水圏科学	30	19
地球人間圏科学	15	14
固体地球科学	51	31
地球生命科学	14	9
地球惑星総合	13	11
合計	141	100

法人運営基本規程第3条改正（連合団体会員資格）について

平成27年度 定時社員総会（5月27日）にて法人運営基本規程3条の改正を承認

法人運営基本規程 第3条

■旧

（入会基準）

第3条 正会員、団体会員又は賛助会員として入会を認める基準は次のとおりとし、理事会が別に定める方法をもって、申し込むものとする。

- (1) 正会員：地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する者
- (2) 団体会員：地球惑星科学に関わる活動実績を有する学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体
- (3) 賛助会員：この法人の事業を援助する個人又は団体

■新

（入会基準）

第3条 正会員、団体会員又は賛助会員として入会を認める基準は次のとおりとし、理事会が別に定める方法をもって、申し込むものとする。

- (1) 正会員：地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会希望する者
- (2) 団体会員：地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。

参考：平成27年日本地球惑星科学連合定時社員総会

日 時 平成27年5月27日（水）16時15分～17時15分

場 所 千葉幕張メッセ国際会議場 国際会議室（〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1）

＜議事録より抜粋＞

第2号議案 法人運営基本規程第3条（団体会員の入会基準）改正の件

議長の指名により、会長津田敏隆氏から、法人運営基本規程第3条の改正について説明があった。連合の団体会員の入会基準を、「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体。」と改正することを諮ったところ、社員の賛成多数により承認された。

日本学術会議報告

[23期のこれまでの活動]

日本学術会議は、2015年10月1日-2日に170回総会を開催した。学協会に関連する事項は以下のとおり。

- (1) 大型研究計画検討分科会（委員長 相原博昭 東大・物理）。情報収集のため、前回のエントリー者（含む不採択）と学術会議会員にアンケートを行った。マスタープラン2017をめぐる状況は、以下のとおり

(a) 分野融合的*な計画及び、共通ファシリティというカテゴリが作られることは、ほぼ確実。

※全学術30分野の内、数分野をまたぐもの（放射光とか、大型データベースなどが例示された）。地惑「内」の融合（例えば、固体地球と大気・水圏とのジョイント）ではなくて、地惑「以外」の他分野との融合が対象。

(b) 新規の大型施設・大型研究計画の提案も受け付けられることは、確実。

(c) 2016年2月ごろ公募開始、3月頃公募締切の見込み。

(d) マスタープラン2014の課題については、改訂を受け付ける見込み。重点計画については、add-onで行くか、それとも若干の入替も行うか、議論が分かれている。いずれにせよ、2017は2014の小規模改訂という位置づけ。

- (2) 協力学術団体の実態調査が行われる見込み（現在1998団体）。
- (3) 第三部（理工学）拡大役員会と、関係学協会（地惑はJpGU）との懇談会が行われる。夢ロードマップ、電子ジャーナルの問題、G7サイエンス（アカデミー）の議題（?）。
- (4) 広報・科学力増進分科会高校理科教育検討小委員会で、提言「これからの高等学校理科教育」策定中。初年次で物化生地の基礎概念を全ての高校生が学ぶ必修科目を創設し、科学リテラシーの涵養を目指す。

[23期地球惑星科学委員会の活動]

全体としての活動： 7月21日 地球惑星科学委員会（総会）。

- (1) 大型研究計画（マスタープラン）対応

(a) 学術会議としてのマスタープラン2017策定方針について、学協会あてに意見を求めた（アンケート）。次の15学会から回答をいただいたことに、謝意を表す：地下水学会、地形学連合、応用地質学会、リモートセンシング学会、地熱学会、地理学会、陸水学会、地質学会、SGEPSS、地震学会、気象学会、水文・水資源学会、堆積学会、大気化学会、地球化学会（海洋学会は独自提出）。いただいた意見をとりまとめて、会員が分担して回答した。

- (b) 現マスタープラン2014のフォローアップ。

地球・惑星圏分科会・大型研究計画WG（藤井良一主査）が、各課題のupdate状況についてアンケートを実施（9月）。その結果に基づき、各課題の改訂状況に対する評価・コメントを近日中にフィードバックする（10月3日）。また、WGメンバーが分担して、各課題に対してsuggestion等の働きかけを行う。

- (c) 今後のスケジュール（予定）

(i) 新規提案については、WGからJpGU傘下の学協会を通じて、問い合わせを行う予定。新規については12月25日に開催予定の地球・惑星圏分科会（又は地球惑星科学委員会）でヒアリングを行う。

(ii) 2016年5月JpGUのユニオンセッションとして、大型研究計画のセッションを提案する。セッションが了承された場合、マスタープラン2014以後、継続を希望する課題及び新規課題の提案者が発表。JpGUセッションボードの委員や連携会員等の採点・コメントを受け付け、その結果を地球惑星科学分野の課題の順位付けに反映させることを検討中。

(2) 電子ジャーナル問題

国公立大学地球惑星科学系の学科・専攻、連携会員の私立大、大学共同利用機関（地惑系）の研究所、研究開発法人（地惑系）を対象に、アンケート調査を実施。9月下旬に締切、とりまとめ中。

パッケージ契約という”ビジネスモデル”※が、学術に与えた功罪が顕在化。

功： 最初は大学規模によらず、読めるタイトル数が同じという平等化

罪： ジャーナルがグローバル消費財となり、毎年必ず数%の値上げを行う契約となっている。そのため、研究機関の財政を圧迫する度合いは、単調増加する（学会独自の発行の場合は、そういうことはあまりない）。（株式会社の経営者である以上、利益を毎年「増加」させないと、株主総会で・・・E社の親会社は、1兆円企業、多国籍企業）

人類の共通財産であるべき「知」が、公的な図書館ではなくて、出版社におさえられてしまうことも問題（例えば、契約を打ち切ると、バックナンバーが読めなくなるケースも生じている）。学会誌（電子ジャーナル）を安易に出版社に委託するときは、要注意。

対応（効果は限定的だが）：コンテンツそのもの（素の論文）と、それに付加価値を施したデジタル・プロダクト（例えば、引用文献にリンクを張って利便性が図られたものとか）との関係みなおし（preprint, repository）。

図書館コンソーシアム（JUSTICEとか）で価格交渉、

open access (gold)：JpGU関連では、PEPS、EPS(Springer)

・・・ボイコット（投稿拒否、査読拒否、編集拒否・・・）。

※ 旅館ホテルの宿泊とか、携帯・スマホで使われる「料金プラン」という語が、ジャーナルの契約でも使われている。独禁法の禁ずる抱き合わせ販売に、似た面も少しありそう）